

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.72

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

英語固有名詞の発音、悔るべからず

田村道美

本年度の日本英学史学会全国大会は10月20日・21日の二日間にわたって、和歌山大学教育学部で開催されました。開会初日に、京都大学の奈良岡聰智氏の「陸奥宗光・広吉父子と英学」と題する特別講演がありました。大変興味深い講演でしたが、一つ気になった点がありました。奈良岡氏は、陸奥宗光の在英時代に陸奥の通訳として活躍した三菱社員の加藤高明が Euston 駅近くの Stanhope Street に下宿していたことを知り、その場所を突き止められたとのことですが、氏は Stanhope をスタンホープと発音されました。講演後、奈良岡氏に地元の人たちがスタンホープと発音していたかどうかお尋ねしたところ、地図を頼りに探したので、地元の人がどう発音するか確認はしなかったとのことのお答えでした。

実は、以前に the Fourth Earl of Chesterfield に関する本を読んでいたとき、彼の本名が Philip Stanhope であると知りました。Stanhope はスタンホープと発音するものと勝手に思い込み、辞書で調べたこともしませんでした。どういうきっかけかは忘れましたが、その後この語を辞書で引いてみると、スタナップと発音すると知って驚きました。このことがあったので、奈良岡先生に上のお尋ねをした次第です。

日頃から学生に異文化理解の難しさは、当たり前とと思っていることがそうでないことだと説いておりますが、何の変哲も無い固有名詞の発音に落とし穴があるとは思いませんでした。以来、固有名詞発音辞典を引く回数が増えました。

竹中龍範支部長もかつてイギリスの Reading University (ご存知のように、Reading はレディングと読みます) に留学されていた折の体験の一つとして、London にある自治区の一つ Holborn をホルボーンと言ったら、級友のイギリス人からハウバンと読むのだと教えられたことをときどき話題にされます。固有名詞の発音と綴り字が一致しないことを改めて痛感されたためだと推察しております。

『ランダムハウス英和大辞典』と『リーダーズ英和辞典』には Holborn が見出し語として収録されていますが、ともに「ホルボーン」となっています。辞書の権威たちも正しい読み方を知らないようです。固有名詞の発音、悔るべからず、というところでしょうか。

(香川大学／日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

平成24年度第2回(通算67回)研究例会(今治研究例会)のご案内

本年度第2回(通算第67回)研究例会を、来る12月8日(土)、今治明德高等学校矢田分校(愛媛県今治市)にて開催する運びとなりました。開催にあたり、今治明德高等学校矢田分校 藤本文昭先生には、格別のご配慮を賜りました。心より篤くお礼申し上げます。

今回の例会では、藤本文昭先生、菅 紀子先生の研究発表が予定されております。今治の英学・英語教育史に触れるまたとない機会となりますので、会員の皆様にはぜひ今治の地にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

日 時： 2012年12月8日(土) 13時00分 受付開始

会 場： 今治明德高等学校 矢田分校 2階ホール

〒794-0081 今治市阿方甲 287 Tel.0898-25-3787 (代) Fax.0898-25-6388

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表(1)(14:05~15:15)

太平洋戦争下の愛媛県今治地域での英語教育 藤本文昭氏(今治明德高等学校矢田分校)

「太平洋戦争中の学校では英語教育が禁止されていた」という言説がある。たしかに女学校を中心に英語の時間を縮小あるいは廃止する学校もあった。しかし実際には太平洋戦争中も男子生徒を教育した中学校や陸海軍の学校では英語教育が行われていた。愛媛県もその例外ではない。女学校では英語の授業が廃止されるも、男子のみを入学させていた旧制中学校では英語教育が戦時下でも行われてきた。巷では英語排斥が叫ばれているさなか、旧制中学校では淡々と英語の授業が行われていた。1944年、海軍兵学校を受験する予定の者には勤労働員を免除し、英語の課外授業まで行っていた。本研究では、愛媛県今治地域またはその周辺の中高等学校での戦時下の英語教育の実態を体験者の証言や残された資料をもとに検討・考察する。

<< 休憩(15:15~15:30) >>

研究発表(2)(15:30~16:40)

今治出身の重見周吉と『日本少年』 菅 紀子氏(松山大学 非常勤講師)

重見周吉は明治維新に先立つ1865年今治に生まれた。同志社英学校を経てエール大学に留学中、学費を繋ぐため指導教授の勧めに従い、今治での少年時代を回想し、日本文化と生活について米国本土で出版した英文著書が*A Japanese Boy by Himself* (『日本少年』)である。ロンドンにおける同書の発見に端を発して以来、本文の翻訳と並行し白紙の状態から調査研究を開始したが、その過程で得てきた資料を今回まとめて紹介し、重見の人物像に迫る。

<< 感想記入(16:40~16:45) >>

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶
写真撮影

<< 今治駅前へ移動(宿泊の方はチェックイン)。タクシーに分乗し、懇親会会場へ >>

忘年懇親会(18:30~20:30)

信州そば 久保田(今治市町谷 163-9 TEL.0898-47-3787)

会費 4,000円

交通のご案内

今治明德高等学校 矢田分校
〒794-0081 今治市阿方甲 287
Tel.0898-25-3787 (代) Fax.0898-25-6388

JR 今治駅から西方向に約 3km
タクシーで 10 分程度

※駅前にある今治明德高等学校(本校)とは異なりますので、ご注意ください。キャンパスは今治バイパス(国道196号)沿いにあり、今治明德短期大学、および今治明德中学校に隣接しています。

(研究例会会場)

★今治明德高等学校 矢田分校



(今治明德高等学校矢田分校 HP <http://www.ima-meitoku.ed.jp/yatabun/> より)

宿泊のご案内

12月8日(土)の宿泊場所として、「今治アーバンホテル新館」(〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町1丁目5-28 TEL 0898-22-5311 / FAX 0898-22-2945)を確保しております。宿泊ご希望の方は、事務局までお申し込みください。一泊7,340円(朝食付き)です。

今治研究例会のご出欠について

※例会・懇親会のご出欠、ならびに宿泊予約ご希望の有無をお知らせください。同封の参加申込用紙の内容につきまして、11月26日(月)までに、メール、ファックス、郵送のいずれかでご回答くださいますよう、お願いいたします。(ファックスの方は11月13日(火)以降に送信をお願いします。学内停電でご迷惑をおかけします。)

事務局連絡先 メールアドレス: eigaku@tom.edisc.jp
FAX 番号: (0824) 74-1725
郵送先: 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562 県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会 中国・四国支部事務局

※当日11:00より理事会を開催します(今治明德高等学校矢田分校1階 会議室にて)。理事の皆様には、理事会のご案内をお届けいたしますので、こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

自家用車をご利用の方へ

今治インターチェンジから直進し、今治バイパス(国道196号)との交差点を左折。約1キロ進むと、右手に今治明德短期大学が見えます。その先に会場の今治明德高等学校矢田分校があります。

(※入口が分かりにくいので、自動車でお越しの方は、あらかじめ事務局までお知らせください。事前にご案内いたします。)



中国・四国支部ニュース

>> 『英學史論叢』第16号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第16号(2013年5月発行予定)の原稿を募集します。

研究論考, 研究ノート, 英学史随想, 英学史時評, 書評等, 会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、次ページに掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

・研究論考・研究ノートを投稿予定の方は、事前に「投稿申込」をお願いします。2013年1月31日までに事務局へ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

メール: eigaku@tom.edisc.jp

ファックス: 0824-74-1725

・原稿提出の締切は、**2013年2月20日**(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートの投稿は、正副計3部をお送りください。英学史随想, 書評等の原稿は1部お送りください。

>> 新入会員

菅 紀子 (かん のりこ)
(所属) 松山大学 非常勤講師
(研究分野) 英語・日本近代文学

江利川 春雄 (えりかわ はるお)
(所属) 和歌山大学
(研究分野) 日本英語教育史

英学史学会全国ニュース

◆ 『関西英学史研究』第7号 (8月20日)

- ・Sixty-five Western Books Impressed with Vermilion Stamps in the Possession of Prefectural University of Kumamoto Library (石井容子)
- ・お雇い教師ヘンリー・ダイアー研究: わが国における成果と動向 (加藤詔士) ほか

◆ 「九州支部会報」39号 (7月5日)

- ・ハーン『講義ノート』新発見の内容と意義 (西川盛雄)
- ・平成24年度支部総会・研究発表大会報告 ほか

※閲覧希望の方は、事務局までご連絡ください。

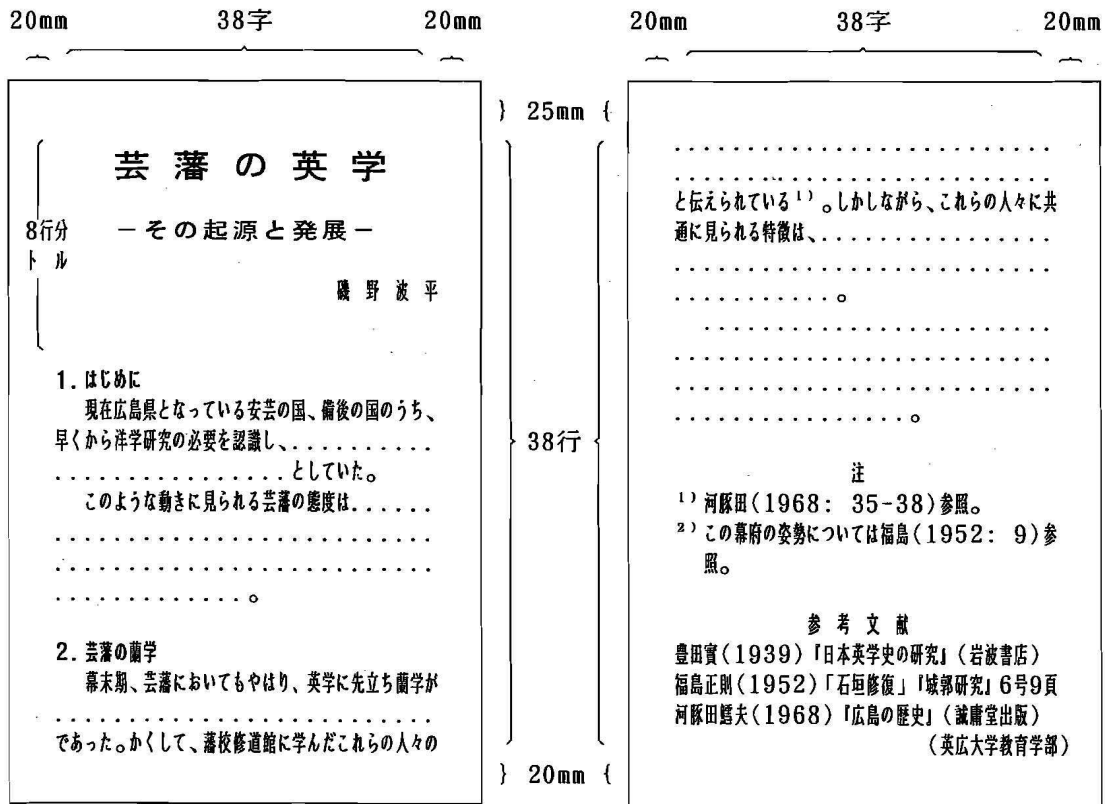
『英學史論叢』 執筆要領

- ・『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
- ・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいたものは受理しないことがある。
- ・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会は必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。
- ・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
- ・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- ・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。
- ・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部の執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

『英學史論叢』 標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18~20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

『英學史論叢』標準書式



英学史情報ひろば

- ◇『江戸一目図を歩く：鍬形蕙齋の江戸名所めぐり』津山郷土博物館, 2012年(津山藩御用絵師を務めた浮世絵師・鍬形蕙齋(くわがた けいさい)による「江戸一目図」の分析と解説。執筆・編集は津山郷土博物館の尾島治氏)[山田宗八先生より]
- ◇第145～146回「広島ラフカディオ・ハーンの家」ニュース(2012年9月～10月)[風呂鞆先生より]

広島英学史の周辺(38) 前任の大学では、四国方面への高校訪問を積極的に行っており、その一環で今治を訪ねたことがある。しまなみ海道が完成する前のことだ。一部の区間を除き、フェリーを使って島々の高等学校を訪ねた。夕方、今治港近くの宿に着いてほっと一息ついたことを思い出す。▼瀬戸の島々の眺めと穏やかな海、それを当たり前のこととして育った。それがどんなに素晴らしいことか、広島へ帰るフェリーの中で聞かされた。佐渡で育った同僚は、こんな海がうらやましいと言う。車なし、仕事なしで盃を傾ける、そん

な瀬戸の船旅がしたいね、という思いが強まった。▼それ以降も四国へ足を運ぶことは多い。ただ、船で渡るとはほとんどなくなり、車なし、仕事なしの機会は遠ざかるばかりだ。それでもやはり、四国はいい。▼愛媛県には、伊予史談会や今治史談会という郷土史研究の拠点があり、長きにわたり活発な活動が続けられている。その愛媛の今治で初の研究例会。ご当地の研究を続けてこられたお二人の発表が今から楽しみだ。▼では皆様、冬の今治でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No. 72
2012年11月11日発行
発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)
事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562
県立広島大学 馬本研究室内
電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)
e-mail: eigaku@tom.edisc.jp
ホームページ http://tom.edisc.jp/eigaku/
郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部